

大阪府教育委員会 山田隆一
ryuichi yamada

L字状石杵について

1 はじめに

「L字状石杵」とは、赤色顔料、殊に辰砂から朱への粉末化、精製に関わったと考えられる遺物で、側面観がL字を呈することから呼称される。現状で30遺跡、38点の資料が確認できる。ただし第1表からも判るように、地域的に大きな偏りがあり、総括するには時期尚早の感がある。よって本稿では、L字状石杵の類例を提示し、そこから抽出できる特徴を思いつくままに列記するに止め、今後の研究の基礎としたい。

2 時期

一部に弥生時代中期後半に遡る可能性があるものの、確実には弥生時代後期初頭に出現し、古墳時代前期の間に確認できる。初期の弥生時代後期初頭例としては、大阪府観音寺山例、同 古曽部・芝谷例があり、他に時期の確定ができないものの大阪府池上・曾根例、滋賀県熊野本例、兵庫県溝之口例もその可能性を考慮しておきたい。現状では近畿地方で出現し、庄内期～布留初頭期の集落展開の中で分布域を拡大しつつ最盛期をむかえ、その後に激減、消滅する。所属時期の明確化は、今後の重要課題の一つである。

3 形態

弥生時代後期初頭から前半にかけては大型品が多く、後期終末から庄内期にかけて片手にすっぽり入るような小型品が増加する。ただし、これは全体的な傾向であって、現状で個々の資料の形態によって時期、あるいは地域性が判明するわけではない。例えば、布留前期に併行する亀川上層式においても加茂A遺跡では明確な大型品(12-1)を造っており、弥生時代後期初頭の大型品と区別できない。

出現の当初から大型品と、小型品がある。古曽部・芝谷遺跡と加茂A遺跡で両者が出土しており、使いわけた可能性がある。なお例外として、大福例は明確にL字状石杵を意識した稿打成形が認められるが、非常に小型で異質な資料である。

非常に丁寧な敲打によってL字状に成形したものと、当初からL字形に近い自然礫でほとんど手をいれないものがある。弥生時代後期初頭～前半の出現段階では前者が多く、厚く重量感のあるものが一般的である。朱の原石である辰砂をすり潰すのであれば、極めて実用的な道具である。なお、地域性とは断言できないが、滋賀県出土例、およびより東方地域にL字形に近い自然礫を素材にしたものが多いことは確かである。



4 その他

出土遺跡としては、弥生後期初頭の高地性集落である観音寺山遺跡、古曽部・芝谷遺跡、熊野本遺跡があり、古墳時代初頭では比恵・那珂遺跡、加茂 A・B 遺跡、溝咋遺跡がある。L 字状石杵は、これら各時代の物流拠点の性格を有する集落から周辺地域に伝えられた情報の一つとして理解しておきたい。八王子例については、後者のネットワークの中で考えておきたい。

出土遺構としては、竪穴住居が最も多く、16 例である。竪穴住居出土例の場合、出土状況から特異性、祭祀性を示す状況はなく、むしろ特別な扱いは確認できない。また、住居跡の規模等から、その住居が集落内でより優位であったり、あるいは特殊な役割を担ったことを示す例もない。朱の祭祀性は否定しえないとしても、L 字状石杵それ自体に祭祀性は示さない¹⁾。

対応する石皿はほとんどの場合、出土しない²⁾。

出土遺構が竪穴住居である場合が多く、しかも加茂 A 遺跡 a～c、加茂 B 遺跡、観音寺山遺跡 a、b 例等は使用による摩滅が著しいにも関わらず、共伴しないことが一般的である。同一遺構内でセットとして出土したのは、会津大塚山古墳南棺々内からのみで、それ以前とは全く性格を異にしている。

弥生時代後期後半以降、庄内期から布留初頭期にかけて、墳墓祭祀で赤色顔料付着の石杵の出土する場合はあるが、扁平な円形や棒状であり L 字状石杵ではない。L 字状石杵は、実用具であり、祭祀具とは区別さたと考えたい。古墳時代前期以降の墳墓関連で確実な例は、会津大塚山古墳例が唯一³⁾である。ここでは、石皿と L 字状石杵、丹塊がセットで出土している。これは、前期古墳の葬送儀礼において棒状石杵や石皿が使用されるようになるのに対応したものと考えられる。つまり、前方後円墳の葬送儀礼に L 字状以外の石杵が使用された段階における、一種の周辺地獄的状况と理解しておきたい。

【註記】

- 1) 八王子遺跡の場合も、祭祀の場である井泉遺構で朱彩土器の出土はあっても、L 字状石杵は祭祀場からは全く離れた竪穴住居の近傍から出土しており、それを示していると考えたい。
- 2) 三重県の縄文時代の朱関連遺物も同じ状況で、石皿はほとんど出土しないということである。川崎志乃氏（三重県埋蔵文化財センター）より教示を得た。
- 3) 滋賀県五村遺跡では、円形周溝墓供献土器外面に水銀朱が塗布されているものがあること、出土遺構である溝 6 を葬送儀礼における供献土器等の廃棄溝と理解して、L 字状石杵と葬送儀礼を結びつけて考える（佐々木勝「五村遺跡出土の石杵について」『五村遺跡』奈良大学文学部考古学研究室 1997）。しかし、筆者は他遺跡の状況から、断言し難いと考えている。

第1表 L字状石杵一覧表

番号	遺 跡 名	所 在 地	遺 構	時 期	備 考	文献
1	根曾2号墳	長崎県下県郡美津島町子ソ	後円部上採集	不明	剥離著しい。大型品。	1
2	比恵1号墳	福岡県福岡市博多区博多駅南	周溝上層	不明	朱付着。	2
3	那珂遺跡13次	福岡県福岡市博多区那珂	住居跡	古墳初頭～前半	朱付着。大型品。	3
4	小田茶臼塚古墳	福岡県甘木市小田	古墳の近く	不明	朱付着。大型品。	4
5-1	大井遺跡-a	福岡県浮羽郡田主丸町	採集	不明	朱付着。	5
5-2	同 -b	同	採集	不明	朱付着。	5
6	犬竹遺跡	福岡県朝倉郡三輪町	12号住居	5世紀代	朱付着。内面朱付着土器伴出。	6
7	藤の尾垣添遺跡	福岡県山門郡瀬高町	13号住居	弥生後期後半	朱付着。内面朱付着土器伴出。	7
8	下稗田遺跡	福岡県行橋市下稗田	55号住居跡	弥生後期中頃	赤色顔料付着。	8
9	郷ヶ原遺跡	福岡県築上郡大平村	2号溝状遺構	弥生後期終末	朱付着。	9
10	伊予小学校保管資料	愛媛県伊予市上野付近?	採集	不明	赤色顔料付着?	10
11	福音小学校構内遺跡	愛媛県松山市福音寺町	竪穴住居	不明	朱付着。	11
12-1	加茂A遺跡-a	岡山県岡山市南加茂	竪穴住居21	亀川上層式	朱付着。棒状石杵伴出。大型品。	12
12-2	同 -b	同	竪穴住居26	下田所式	朱付着。小型品。	12
12-3	同 -c	同	竪穴住居30	下田所式	ベンガラ付着。大型品。	12
13	加茂B遺跡	同	竪穴住居22	オの町Ⅱ式	朱付着。小型品。	13
14	溝之口遺跡	兵庫県加古川市溝之口	竪穴住居1の中央穴	弥生後期	使用痕なし。大型品。	14
15	伯母野山遺跡	兵庫県神戸市灘区篠原	採集	不明	赤色顔料付着。	15
16	池上・曾根遺跡	大阪府和泉市池上町		不明	使用痕あり。大型品。	16
17-1	観音寺山遺跡-a	大阪府和泉市観音寺町	N-5号住居跡	弥生後期初頭	朱・ベンガラの混合物付着。大型品。	17
17-2	同 -b	同	N-5号住居跡	弥生後期初頭	朱・ベンガラの混合物付着。大型品。	17
18	新庄遺跡	大阪府茨木市新庄町	竪穴住居S B20	弥生後期後半	使用痕あり。自然石の一部加工。	18
19-1	溝咋遺跡-a	大阪府茨木市学園町	7面土坑133	布留前半	赤色顔料付着。 隣接する土坑122から石皿出土。	19
19-2	同 -b	同	7面土坑98	布留	赤色顔料付着。L字状石杵の可能性。	19
20-1	古曽部・芝谷遺跡-a	大阪府高槻市古曽部町他	環濠K3	弥生後期初頭～前半		20
20-2	同 -b	同	住居S2	弥生後期初頭	大型品。	20
20-3	同 -c	同	芝谷地区包含層	弥生後期初頭～前半	大型品。	20
21	彼方遺跡	大阪府富田林市彼方	住居跡L N26	弥生後期終末	赤色顔料付着。	21
22	池島・福万寺遺跡	大阪府東大阪市池島町	土坑101上面	庄内	朱付着。	22
23	大福遺跡13次	奈良県桜井市大福	弥生後期包含層	弥生後期	朱付着。超小型品。	23
24	酒寺遺跡	滋賀県守山市播磨田町	竪穴住居S H6	弥生後期中頃	朱付着。朱塊(径約3cm)共伴。	24
25	鴨稻荷山古墳周辺	滋賀県高島郡高島町鴨	表採	不明	朱付着。大型品。	25
26	五村遺跡	滋賀県東浅井郡虎姫町五村	溝6下層	庄内前半	朱・ベンガラ付着。	26
27	熊野本遺跡	滋賀県高島郡新旭町熊野本	台状墓、竪穴住居の横	弥生後期	赤色顔料付着。中型品。	27
28-1	八王子遺跡-a	愛知県一宮市大和町荻安賀	竪穴住居の近く	廻間Ⅰ式中頃	赤色顔料付着。	28
28-2	同 -b	同	竪穴住居の近く	廻間Ⅰ式中頃	赤色顔料付着。	28
29	郷中遺跡	愛知県豊川市三谷原町	D-5 SD6付近	不明	使用痕なし。	29
30	会津大塚山古墳	福島県会津若松市	南棺々内	古墳前期中頃	台石、丹塊伴出。	30

・化学分析によって、赤色顔料の種類が判明している資料については、備考欄に記載した。「赤色顔料付着」としたものは種類の不明なものであり、記載のないものは赤色顔料が付着しない、あるいは残存しない資料である。

・第1表の番号は、図1・2の番号と一致する。

参考文献

- 1； 未報告。
- 2； 横山邦継『比恵遺跡・遺物編』福岡市教育委員会 1986。
- 3； 田崎博之他『那珂2』福岡市教育委員会 1990。
- 4； 柳田康雄『小田茶臼塚古墳』甘木市教育委員会 1979。
- 5； 柳田康雄『田中幸夫寄贈品目録』九州歴史資料館 1982。
- 6； 石山勲『犬竹遺跡』三輪町教育委員会 1985。
- 7； 田中康信『藤の尾垣添遺跡の調査 II』瀬高町教育委員会 1989。
- 8； 末永弥義他『下稗田遺跡』行橋市教育委員会 1985。
- 9； 飛野博文『郷ヶ原遺跡』福岡県教育委員会 1998。
- 10； 山之内志郎「愛媛県伊予市立伊予小学校保管の石杵」『遺跡』第 37 号 遺跡発行会 1999。
- 11； 未報告。山之内志郎「愛媛県伊予市立伊予小学校保管の石杵」『遺跡』第 37 号 遺跡発行会 1999。
- 12； 岡山県古代吉備文化財センター『足守川河川改修工事に伴う発掘調査』岡山県文化財保護協会 1995。
- 13； 岡山県古代吉備文化財センター『足守川河川改修工事に伴う発掘調査』岡山県文化財保護協会 1995。
- 14； 岡本一士『溝之口遺跡発掘調査報告書 I』加古川市教育委員会 1992。
- 15； 若林泰他『伯母野山弥生遺跡』神戸市教育委員会 1963。
- 16； 未報告。佐賀県立博物館他『弥生都市はあったか 一拠点環濠集落の実像一』2001。
- 17； 管栄太郎他『大阪府和泉市観音寺山遺跡発掘調査報告書』同志社大学歴史資料館 1999。
- 18； 松岡良憲『新庄遺跡』大阪府教育委員会 1996。
- 19； 合田幸美他『溝咋遺跡（その 1・2）』大阪府文化財調査研究センター 2000。
- 20； 宮崎康雄『古曽部・芝谷遺跡』高槻市教育委員会 1996。
- 21； 未報告。
- 22； 亀井 聡『池島・福万寺遺跡発掘調査概要 XXVIII』大阪府文化財調査研究センター 2002。
- 23； 橋本輝彦他「大福遺跡第 13 次調査の特殊遺物」『みずほ』第 27 大和弥生文化の会 1998。
- 24； 伴野幸一『酒寺遺跡現地説明会資料』守山市教育委員会 1993。
- 25； 白井順子「石杵の新資料」『滋賀考古学論叢 第 4 集』滋賀考古学論叢刊行会 1988。
- 26； 奈良大学文学部考古学研究室・滋賀県虎姫町教育委員会『五村遺跡』1997。
- 27； 未報告。
- 28； 今回報告。
- 29； 前田清彦他『郷中・雨谷』豊川市教育委員会 1989。
- 30； 会津若松史出版委員会編「会津大塚山古墳」『会津若松史』別巻 1 会津若松市 1964。

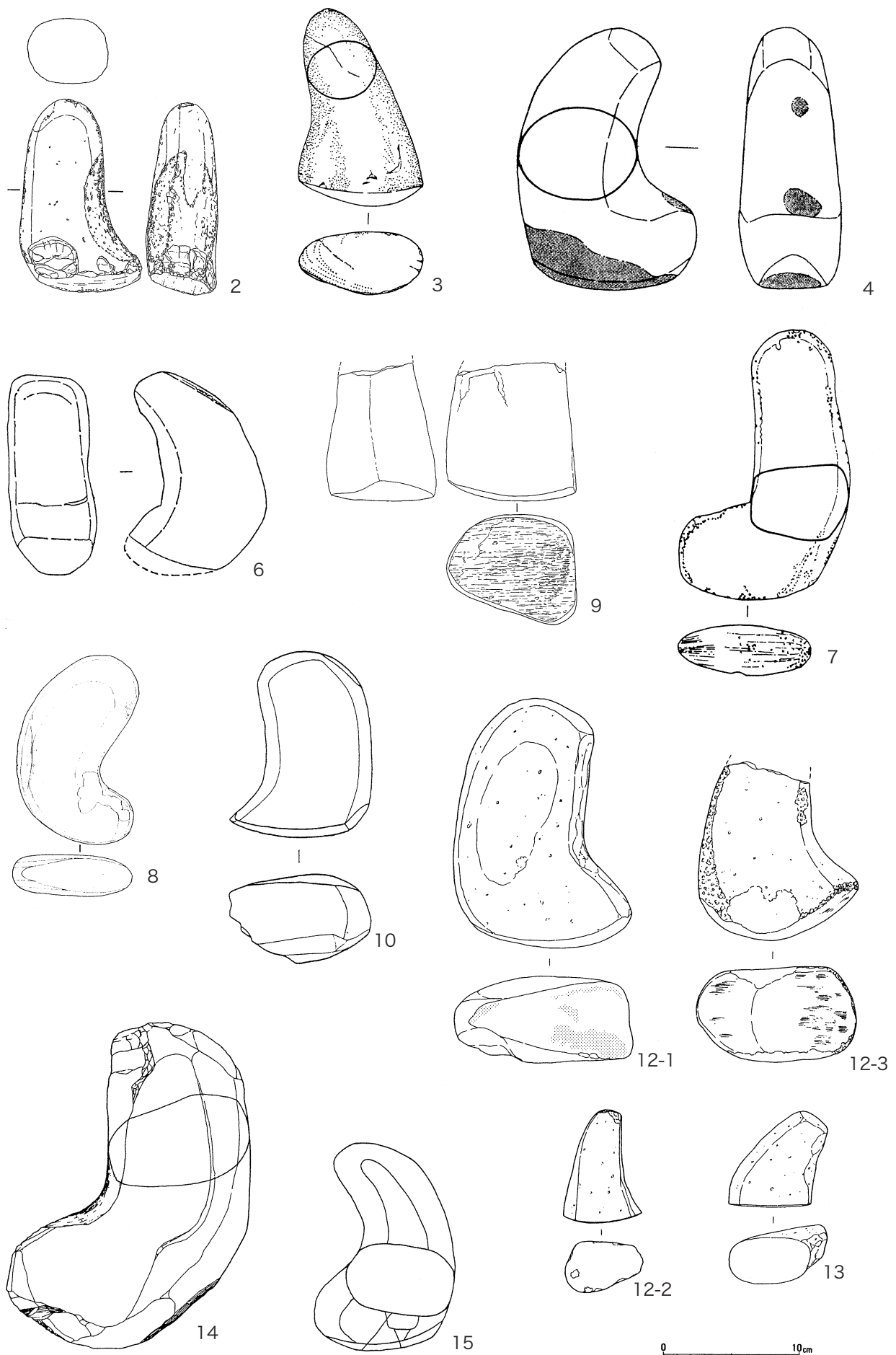


図1 L字状石杵(1)

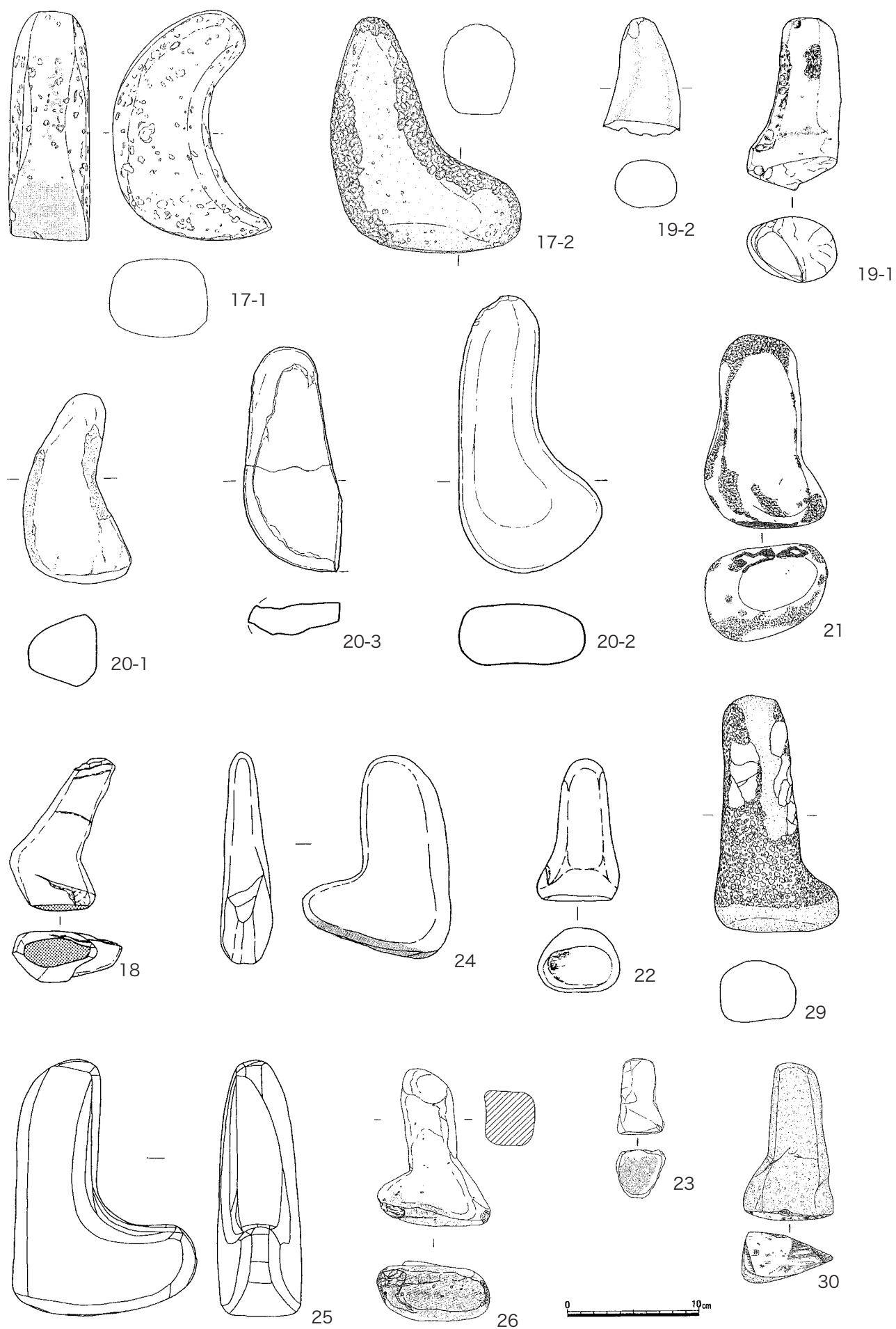


图2 L字状石杵(2)